

人文学・社会科学における「課題設定型」・ 「プロジェクト型」共同研究の推進について

令和5年7月25日

文部科学省 研究振興局 振興企画課 学術企画室



文部科学省

人文学・社会科学における「課題設定型」・「プロジェクト型」共同研究の推進について

事業の展開について

- 現代社会において人類が直面する諸問題の解明と対処に向け、人文学・社会科学を中心とした各分野の研究者が協働して、学際的・学融合的に取り組む課題設定型プロジェクト研究を平成15年度から日本学術振興会において実施。
- 平成18年度から政策や社会の要請に対応した人文・社会科学研究推進事業を文部科学省において実施。
- 競争的資金制度の在り方の検討や学術分科会報告（平成24年7月25日）を踏まえ、既存の人文学・社会科学振興に関する事業を統合し、平成25年度から日本学術振興会において、課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業を実施。
- 平成25年度から令和2年度までは、「領域開拓」「実社会対応」「グローバル展開」の3つのプログラムの新規採択を順次実施。
- 学術分科会人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ審議のまとめ（平成30年12月14日）

「現代の現実社会が直面する諸課題の克服のためには、人文学・社会科学の研究者がよりその専門知を活かしつつ、**未来社会の構想において能動的に役割を果たすことができるよう、人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いに基づく大きなテーマを設定し、その中に自然科学の研究者も含む分野を超えた研究者が参加し、相互に議論することを通じて現代的課題に関する研究課題を設定し、共同研究を行う中で問いに対する探究を深めていく共創型のプロジェクトを行うことが有効な手法と考えられる**」

以下2つの事業を実施

学術知共創プロジェクト（文科省）

- 分野を超えた研究者等が知見を寄せ合って研究課題と研究チームを創り上げていくための場（共創の場）の整備を支援。
- 大阪大学を実施機関とし、令和2年度から4年度まで実施。（これまでの取組を検証し、今後の人文・社会科学の推進方針に反映）

学術知共創プログラム（日本学術振興会）

- 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業において、令和3年度から「学術知共創プログラム」を開始。

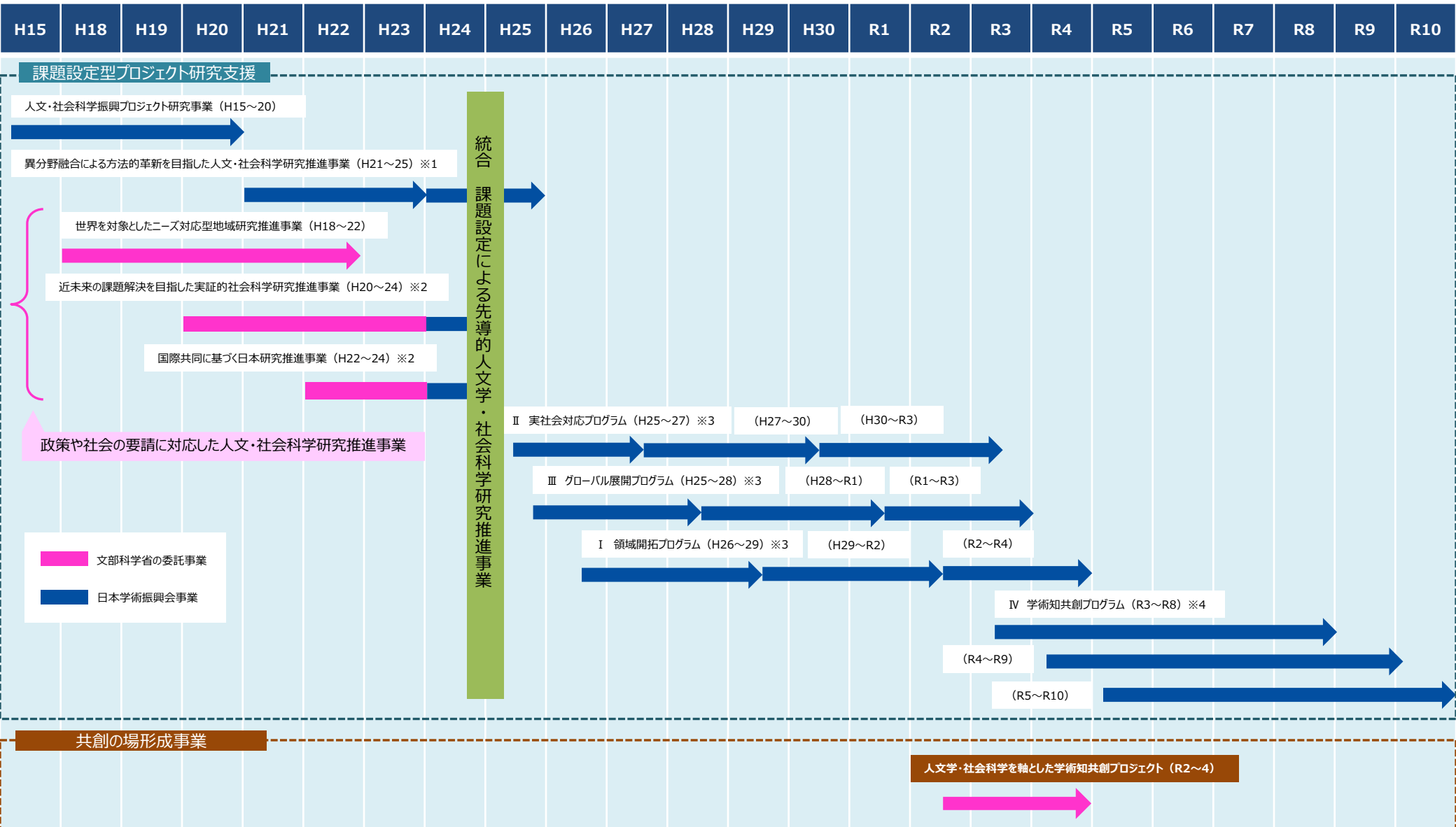
（3つの大きなテーマ）

- 課題A：将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方
- 課題B：分断社会の超克
- 課題C：新たな人類社会を形成する価値の創造

今後の検討事項

- 学術知共創プロジェクトの事業成果の検証
- 学術知共創プロジェクトの事業成果の検証を踏まえた、課題設定型・プロジェクト型共同研究の意義、成果発信の在り方、及び今後の推進方針

人文学・社会科学における「課題設定型」・「プロジェクト型」共同研究の推進事業について



(※1) 評価の結果を踏まえ、一部課題を最大H25まで継続延長。

(※2) H24に文部科学省内局予算事業を日本学術振興会に移管。

(※3) 『リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学及び社会科学の振興について』(平成24年7月25日科学技術・学術審議会 学術分科会)を踏まえ、H25に課題設定による先導的人文学社会科学研究推進事業を開始。

(※4) 『人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて(審議のまとめ)』(平成30年12月14日科学技術・学術審議会 学術分科会人文学・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ)及び『人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト(審議のまとめ)』(令和3年1月22日学術分科会を踏まえ、3プログラムを再編・統合し、学術知共創プログラムを開始。

背景・課題

我が国社会や世界が転換期を迎える中、AIや生命科学などの**先端領域の科学技術の社会実装**、また、人間中心の社会を掲げる**Society5.0**の**具体化**に向けて**人文学・社会科学の学術知に対する期待が高まっているが、人文学・社会科学の学術知の活用**に当たっては**以下が課題**。

- 人文学・社会科学の個々の**専門的な研究がそれぞれに分断され、現代的な社会課題やマクロな知の体系との関連付けを得ることが難しくなっている**。
- **自然科学による問題設定が主導する形**となっているため、人文学・社会科学の研究者が**インセンティブを持って協働することが難しく**また、人文学・社会科学の学問体系で蓄積された知と**自然科学から発せられるニーズとの間に距離がある**。

「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議まとめ）」（平成30年12月）

「人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いに基づく大きなテーマの下で研究者の内発的動機に基づく提案を募り、その提案を異分野の研究者が相互に交換・議論して研究課題を形成するプロセスを尊重するプロジェクト運営を丁寧に行うことが重要」

事業概要

未来社会が直面するであろう諸問題（「大きなテーマ」）のもとに、**分野を超えた研究者等が知見を寄せ合って研究課題と研究チームを創り上げていくための場（共創の場）を整備**する。このことを通じて、**未来の社会課題に向き合うための考察のプロセスを体系化**する。

大きなテーマ：①将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方 ② 分断社会の超克 ③ 新たな人類社会を形成する価値の創造

<事業スキーム>

事業規模：約30百万円／年
事業期間：3年間
実施機関：大阪大学



<実施状況>

(取組概要)

問い直すべき共通概念、あるいは議論の出発点として「いのち」を置く。「いのち」は誰もがその大切さを認め、また人間や社会の意味やあり方を探求する人文学・社会科学に深く関わる概念であるので、自然科学系研究者や社会のステークホルダーとコミュニケーションを図り、新たな学術知を共創する。

(中心研究者)

- 事業総括者
盛山和夫 東京大学名誉教授（社会学）
- プロジェクト・マネージャー
堂目卓生 大阪大学大学院経済学研究科教授（経済思想史）
- テーマ代表者
 - 将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方
大竹文雄 大阪大学大学院経済学研究科教授（行動経済学）
 - 分断社会の超克
稲場圭信 大阪大学大学院人間科学研究科教授（宗教社会学）
 - 新たな人類社会を形成する価値の創造
出口康夫 京都大学大学院文学研究科教授（近現代哲学）

(アウトプット)

- 3つの大きなテーマに対して、毎年度3つ程度の研究チームを構築
- 未来の社会課題に向き合うための考察のプロセスの体系化



※実施イメージ



課題設定による先導的・人文学社会科学 研究推進事業

令和5年度予算額 181百万円
(前年度予算額 181百万円)
※運営費交付金中の推計額 文部科学省

目的

未来社会が直面するであろう諸問題に係る有意義な応答を社会に提示することを目指す研究テーマを掲げ、人文学・社会科学から自然科学などの多様な分野の研究者や社会の多様なステークホルダーが参加して、人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いを追求する研究を推進することで、その解決に資する研究成果の創出を目指す。

事業概要

【背景・課題】

- 平成25年度より、「リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学・社会科学の振興について」(H24.7科学技術・学術審議会学術分科会)を踏まえ、諸学の密接な連携によるブレイクスルーを生み出す共同研究等を推進。
- 近年においても、現代社会が対峙している社会的課題に十分な応答ができていない、人文学・社会科学の知を自然科学のニーズに活かすには距離がある、といった指摘は少なくなく、「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト(審議のまとめ)」(R3.1科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会)において、解決策が十分には探求されていない、あるいは問題が顕在化していない30~50年先の国際社会や我が国社会を見据えた長期的な視座が必要なもので、かつ人文学・社会科学分野が中心となって取り組むことが適当と考えられる「大きなテーマ」が提示。
- 人文学・社会科学から自然科学などの多様な分野の研究者や社会の多様なステークホルダー(産業界、NGO、マスコミ、行政、公益法人等)が参加して、そのような社会的課題に向き合う研究を推進し、その解決に資する研究成果の創出を目指す「学術知共創プログラム」を令和3年度より開始。

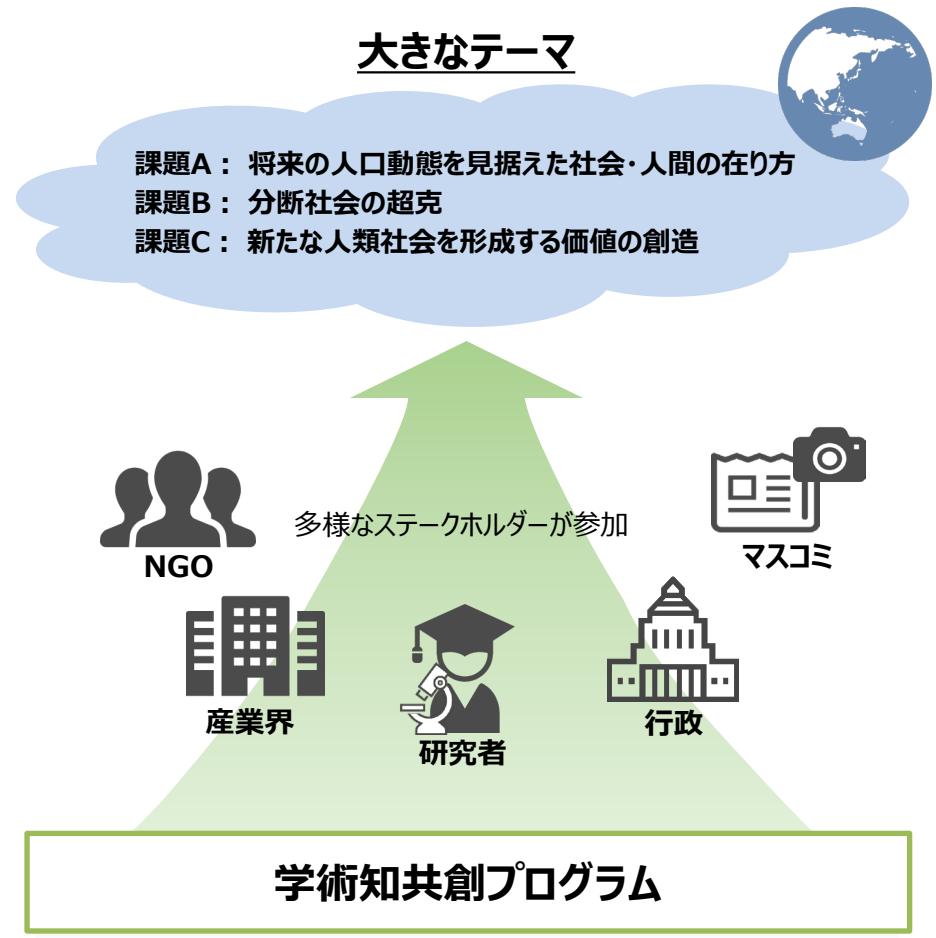
学術知共創プログラム

○ 予算・期間

支援単価：20百万円程度/年(間接経費含む)
支援期間：最長6年間

○ 特徴

- ・ 学術研究の環境を維持しつつ、社会的要請等に寄与する大きなテーマを設定することで、研究課題のスケールと社会的課題に対する多様性を確保
- ・ 世代間の協働や国際的な取組にも配慮して構築された研究実施体制
- ・ 分野における課題を総合的に突破する研究課題の推進



課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業

課題一覧

領域開拓プログラム		
行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開 (H26)	メディアの発達によるソーシャル・キャピタルの変質 (H26)	規範理論と経験分析の対話 (H26)
情報メディア発展のもとでの新しい地域研究 (H26)	学術研究の変容とミスコンダクトについての人文学・社会科学研究 (H26)	「認知科学的転回」とアイデンティティの変容 (H29)
「責任ある研究とイノベーション」の概念と「社会にとっての科学」の理論的実践的深化 (H29)	テクノロジーの革新と日本の美学および感性 (H29)	嗜好品の文化的・社会的意味 (H29)
人文学・社会科学における方法論の検討および新たな創出の試み (R2)	人工知能など高度化する情報技術社会におけるルールと公共性の問題 (R2)	グローバル化社会における格差と機会の平等についての領域横断的研究 (R2)
科学技術と「人間」との関係性に関する研究 (R2)	パンデミックなど世界規模の災禍への人間社会の対応と課題 (R2)	
実社会対応プログラム		
人口動態を踏まえた日本の国と社会のかたち (H25)	非常時における適切な対応を可能とする社会システムの在り方 (H25)	観光の人文学・社会科学的深化による地域力の創出 (H25)
規制改革の評価分析 (H25)	教育政策の社会的・経済的効果に関する評価 (H25)	共生社会実現をめざす地域社会及び専門家の内発的活動を強化するための学術的実践 (H25)
制度、文化、公共心と経済社会の相互連関 (H27)	疫病の文化形態とその現代的意義の分析 —社会システム構築の歴史的考察を踏まえて— (H27)	人口減少地域社会における安心しうるケア・システムの構築と生活基盤の整備 (H27)
世代間衡平性・持続可能性・社会安全性等の倫理的観点を考慮した政策設計のための実践的研究 (H30)	LGBTおよび性的少数者をめぐる社会的ダイバーシティの実現に関する研究 (H30)	人口減少社会における多様な文化の共生をめざすコミュニティの再構築 (H30)
忘却に関する学際的研究と社会対応基盤の構築 (H30)		
グローバル展開プログラム		
グローバル人文学 (H25)	日本の国際広報と国際発信に関する実証研究 (H25)	科学についてのコミュニケーション及び意思決定の国際的な整合的発展 (H25)
家族制度と男女共同参画に関する国際比較 (H25)	日本企業のコーポレート・ガバナンスに関するグローバルな発信 (H25)	グローバル社会における排他主義とデモクラシーに関する総合的研究 (H28)
グローバル化に対応した人文学・社会科学教育の国際比較 (H28)	グローバル人文学：日本文学・芸術・思想の普遍性の探求 (H28)	グローバル化する世界における社会的分断の研究 (R1)
情報化や AI などの技術革新および環境問題などに直面する新たな人文学・社会科学の展開 (R1)	グローバル時代における国境を越えた秩序の形成と国家 (R1)	人類の文化遺産継承のための国際共同研究 (R1)
学術知共創プログラム		
将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方 (R3～)	分断社会の超克 (R3～)	新たな人類社会を形成する価値の創造 (R3～)

各事業の応募数、採択数及び採択率

事業名	プログラム名	公募年	研究期間	研究費(万円)	応募数	採択数	採択率(%)
世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業	－	H18	3～5年	2,000	99	6	6.1
	－	H19	3年	500	39	4	10.3
近未来の課題解決を目指した実証的 社会科学推進事業	－	H20	3～5年	1,500～2,500	56	4	7.1
国際共同に基づく日本研究推進事業	－	H22	3年	700	46	3	6.5
異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学推進事業	－	H21	3～5年	500	131	11	8.4
課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業	領域開拓プログラム	H26	3年	500	63	10	19.0
		H29			44	12	27.3
		R2			75	11	14.7
	実社会対応プログラム	H25		500	58	11	22.4
		H27			57	9	19.3
		H30			67	8	11.9
	グローバル展開プログラム	H25		1,000	27	3	18.5
		H28			38	6	18.4
		R1			49	6	12.2
	学術知共創プログラム	R3		6年	1,500	31	2
R4		29	2			6.9	
R5		28	4			14.3	
人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト	－	R2	3年	3,000	10	1	10.0

※人文・社会科学振興プロジェクト研究事業（H15～20）、異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学推進事業（H21～25）の課題設定型研究領域、及び課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業（H25～）の課題設定型研究テーマ/研究テーマ設定型については、事業委員会委員からの提案に基づき選定。

參考資料

第2章 Society5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

2. 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

(1) 多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築

(b) あるべき姿とその実現に向けた方向性

新しい価値観や社会の在り方を探究・提示することなどを旨とする人文・社会科学について、総合的・計画的に振興するとともに、自然科学の知と連携・協働を促進し、分野の垣根を超えた「総合知」の創出を進める。我が国のアカデミアの総体が、分野の壁を乗り越えるとともに、社会の課題に向き合い、グローバルにも切磋琢磨しながら、より卓越した知を創出し続けていく。（「科学技術・イノベーション基本計画」P.51）

(c) 具体的な取組

⑦ 人文・社会科学の振興と総合知の創出

○ 未来社会が直面するであろう諸問題に関し、人文・社会科学系研究者が中心となって研究課題に取り組む研究支援の仕組みを2021年度中に創設し推進する。その際、若手研究者の活躍が促進されるような措置をあわせて検討する。

○ 人文・社会科学の研究データの共有・利活用を促進するデータプラットフォームについて、2022年度までに我が国における人文・社会科学分野の研究データを一元的に検索できるシステム等の基盤を整備するとともに、それらの進捗等を踏まえた2023年度以降の方向性を定め、その方針に基づき人文・社会科学のデータプラットフォームの更なる強化に取り組む。（略）

○ （略）また、未来社会を見据え、人文社会科学系の研究者が、社会の様々なステークホルダーとともに、総合知により取り組むべき課題を共創する取組を支援する。こうした取組を通じて、社会の諸問題解決に挑戦する人的ネットワークを強化する。

○ （略）あわせて、人文・社会科学や総合知に関連する指標について2022年度までに検討を行い、2023年度以降モニタリングを実施する。（「科学技術・イノベーション基本計画」P.56）

2. 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

（1）多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築

⑦ 人文・社会科学の振興と総合知の創出（P.114-115）

基本計画における具体的な取組	実施状況・現状分析	今後の取組方針
<p>○未来社会が直面するであろう諸問題に関し、人文・社会科学系研究者が中心となって研究課題に取り組む研究支援の仕組みを2021年度中に創設し推進する。その際、若手研究者の活躍が促進されるような措置をあわせて検討する。【文】</p>	<p>・「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」において、2021年度から、未来社会が直面するであろう諸問題に関し、人文・社会科学系研究者が中心となって研究課題に取り組む学術知共創プログラムを実施し、人文・社会科学の知見及び総合知の創出に貢献。なお、公募要領において、研究実施体制が年齢等に関して多様性を持っているとともに、世代間の協働等にも配慮して構築されているかも審査の観点として記載。</p>	<p>・新たな研究テーマを採択する等、引き続き、未来社会が直面するであろう諸問題に関し、人文・社会科学系研究者が中心となって研究課題に取り組む学術知共創プログラムを推進。【文】</p>
<p>○人文・社会科学の研究データの共有・利活用を促進するデータプラットフォームについて、2022年度までに我が国における人文・社会科学分野の研究データを一元的に検索できるシステム等の基盤を整備するとともに、それらの進捗等を踏まえた2023年度以降の方向性を定め、その方針に基づき人文・社会科学のデータプラットフォームの更なる強化に取り組む。（略）【文】</p>	<p>・人文・社会科学に関する5拠点の有するデータのメタデータの収集や一括検索機能を備えた総合データカタログを運用。 ・オンライン分析ツールの運用を開始。</p>	<p>・人文・社会科学分野における総合データカタログの運用等を引き続き推進するとともに、データの充実等により、人社データインフラを強化。また、新たに中核機関及び拠点機関を選定する予定。【文】</p>
<p>○（略）また、未来社会を見据え、人文・社会科学系の研究者が、社会の様々なステークホルダーとともに、総合知により取り組むべき課題を共創する取組を支援する。こうした取組を通じて、社会の諸問題解決に挑戦する人的ネットワークを強化する。【文】</p>	<p>・2020年度から、未来社会を見据え、人文・社会科学系の研究者が社会の様々なステークホルダーとともに総合知により取り組むべき課題を共創する事業を実施。社会課題等のテーマを設定したワークショップ等を開催し、複数の研究チームを創出。</p>	<p>・これまでの取組を検証し、今後の人文・社会科学の推進方針に反映。【文】</p>
<p>○（略）あわせて、人文・社会科学や総合知に関連する指標について2022年度までに検討を行い、2023年度以降モニタリングを実施する。【科技、文】</p>	<p>・2021年度から科学技術・学術審議会学術分科会の下に設置した人文学・社会科学特別委員会で、人文・社会科学に関する指標の検討を行い、「人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について（とりまとめ）」を公表。</p>	<p>・人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について（とりまとめ）に基づき、人文・社会学分野における研究成果に係る指標のモニタリングを実施するとともに、モニタリングの手法及び指標の扱いについて、引き続き、改善・充実。【文】</p>

人文・社会科学振興プロジェクト研究事業 課題一覧

研究領域	プロジェクト研究名	研究代表者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
Ⅰ. 知の遺産をはじめとする日本の在り方と今後の変容について研究する領域	日本的知的資産の活用	桑子 敏雄	東京工業大学・社会理工学研究科・教授	平成15～20年度
	「失われた10年」の克服 – 日本の社会システムの再構築 –	青島 矢一	一橋大学・イノベーション研究センター・准教授	平成15～20年度
	これからの教養教育	鈴木 佳秀	新潟大学・現代社会文化研究科・教授	平成15～20年度
Ⅱ. グローバル化時代における多様な価値観を持つ社会の共生を図るシステムについて研究する領域	平和構築に向けた知の展開	黒木 英充	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授	平成15～20年度
	多元的共生社会の構築	宇田川 妙子	人間文化研究機構・国立民俗学博物館・准教授	平成15～20年度
	グローバル・ガバナンスの解明	遠藤 乾	北海道大学・公共政策大学院・教授	平成15～20年度
	水のグローバル・ガバナンス	中山 幹康	東京大学・新領域創成科学研究科・教授	平成15～20年度
Ⅲ. 科学技術や市場経済等の急速な発展や変化に対応した社会倫理システムのあり方について研究する領域	ボトムアップ人間関係論の構築	佐藤 達哉	立命館大学・文学部・教授	平成15～20年度
	医療システムと倫理	清水 哲郎	東京大学・人文社会系研究科・教授	平成15～20年度
	科学技術ガバナンス	城山 英明	東京大学・法学政治学研究所・教授	平成15～20年度
	市場システムのガバナンス	久米 郁男	早稲田大学・政治経済学部・教授	平成15～20年度
Ⅳ. 過去から現代にわたる社会システムに学び、将来に向けた社会の持続的発展の確保について研究する領域	千年持続学の確立	木村 武史	筑波大学・人文社会系・准教授	平成15～20年度
	豊かな人間像の獲得	小長谷 有紀	人間文化研究機構・国立民族学博物館・教授	平成15～20年度
	資源配分メカニズムと公正	佐藤 仁	東京大学・新領域創成科学研究科・准教授	平成15～20年度
Ⅴ. 現代社会における言語・芸術・芸能表現の意義と可能性について研究する領域	伝統と越境 –とどまる力と越え行く流れのインタラクション–	沼野 充義	東京大学・人文社会系研究科・教授	平成15～20年度
	日本の文化政策とミュージアムの未来	木下 直之	東京大学・人文社会系研究科・教授	平成15～20年度
	文学・芸術の社会的媒介機能	吉岡 洋	京都大学・文学研究科・教授	平成15～20年度

世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業 課題一覧

平成18年度採択					
研究領域	研究対象地域	研究課題名	研究代表者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
日本と諸地域との関係性の 解明－協働に向けて－	中東	アジアのなかの中東：経済と法を中心に	加藤 博	一橋大学・大学院経済学研究科・教授	平成18～22年度
	東南アジア	人道支援に対する地域研究からの 国際協力と評価 -被災社会との共生 を実現する復興・開発をめざして-	中村 安秀	大阪大学・大学院人間科学研究科・教授	平成18～22年度
	東南アジア	東南アジア諸国-ベトナム、カンボジア、 インドネシア等-に対する法整備支援 戦略研究	鮎京 正訓	名古屋大学・法政国際教育協力研究センター・センター長	平成18～21年度
地域のアイデンティティーの 解明－相互理解を深める ために－	中東	中東とアジアをつなぐ新たな地域概念・ 共生関係の模索	酒井 啓子	東京外国語大学・大学院地域文化研究科・教授	平成18～21年度
	東南アジア	東南アジアのイスラーム：トランスナ ショナルな連関と地域固有性の動態	床呂 郁哉	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授	平成18～21年度
	東南アジア	東南アジアにおける混住社会から共生 社会への移行戦略の創出 -企業 進出下の在り地社会変容に関する 調査をもとに-	内藤 耕平	東海大学・文学部・准教授	平成18～21年度
平成19年度採択					
研究領域	研究対象地域	研究課題名	研究代表者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
開発等に伴う環境問題	中央アジア	中央アジアにおける環境共生と日本の 役割－価値創造に基づく地域研究 のあり方－	奥田 敦	慶應義塾大学・総合政策学部・教授	平成19～21年度
	南アジア	南アジア周縁地域の開発と環境保 全のための当事者参加による社会的 ソフトウェア研究	安藤 和雄	京都大学・東南アジア研究所・准教授	平成19～21年度
人的移動に伴う社会問題	中央アジア	中央アジア移民管理と多国間国際 協力の必要性に関する研究	堀江 典生	富山大学・極東地域研究センター・教授	平成19～21年度
	南アジア	バングラデシュの社会経済的格差と 労働移動に関する実証的研究：境 界を越える人々	山本 真弓	山口大学・人文学部・准教授	平成19～21年度

近未来の課題解決を目指した実証的社会科学研究推進事業 課題一覧

研究領域	研究課題名	研究代表者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
豊かな経済活力を生む社会経済制度の設計	高質の住宅ストックを生み出し支える社会システムの設計	齊藤 誠	一橋大学・経済学研究科・教授	平成20～24年度
	持続的成長を可能にする産業・金融ネットワークの設計	渡辺 努	一橋大学・経済学研究科・教授	平成20～24年度
生活の豊かさを生む新しい雇用システムの設計	すべての人々が生涯を通じて成長可能となるための雇用システム構築	玄田 有史	東京大学・社会科学研究所・教授	平成20～24年度
	ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和：キャリア形成と家庭・地域・社会活動が可能な働き方の設計	永瀬 伸子	お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科・教授	平成20～24年度

国際共同に基づく日本研究推進事業 課題一覧

研究課題名	研究代表者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
日本サブカルチャー研究の世界的展開—学術的深化と戦略的な成果発信	油井 清光	神戸大学・人文学研究科・教授	平成22～24年度
ボストン美術館所蔵日本古典籍調査	中野 三敏	九州大学・韓国研究センター・名誉教授	平成22～24年度
欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究	Kreiner Josef	法政大学・国際戦略機構・特別教授	平成22～24年度

異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業 課題一覧

課題設定型研究領域（2件）

研究テーマ名	研究代表者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
ニューロポリティクス（政治学と神経科学の融合による社会行動の科学的理解）	加藤 淳子	東京大学・大学院 法学政治学研究科・教授	平成21～25年度
日本の環境思想と地球環境問題 – 人文知からの未来への提言	秋道 智彌	総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター・教授	平成21～25年度

公募型研究領域（13件）

研究テーマ名	研究代表者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
意思決定科学・法哲学・脳科学の連携による「正義」の行動的・神経的基盤の解明	亀田 達也	北海道大学・文学研究科・教授	平成21～25年度
公共的コミュニケーションの可視化 – 複雑社会における政治的法的判断の構造	城山 英明	東京大学・大学院法学 政治学研究科・教授	平成21～25年度
理論物理学との融合によるマクロ経済学の再構築	吉川 洋	東京大学・大学院経済学 研究科・教授	平成21～25年度
都市災害の減災と復興のシステム構築 – 災害研究の新しい地平をめざす文理融合的研究	似田貝 香門	東京大学・大学院人文 社会系研究科・名誉教授	平成21～25年度
人工工学の方法による人文社会科学の実質化	徃住 彰文	東京工業大学・大学院 社会理工学研究科・教授	平成21～25年度
文化財に含まれる膠の自然科学的分析による古代文化史および技術史の解明	宮路 淳子	奈良女子大学・大学院 人間文化研究科・准教授	平成21～25年度
自然災害の被災と被災後の「二重の生活危機」を最小化する災害弱者のための地域防災研究	北川 慶子	佐賀大学・文化教育学部・教授	平成21～25年度
工学的知見の活用による能楽「型付」の記述ルール及び芸芸伝承システムの解明	山中 玲子	法政大学・能楽研究所・教授	平成21～25年度
うつ病者の社会復帰支援における実証的融合研究	福山 清蔵	立教大学・コミュニティ福祉学研究科・教授	平成21～25年度
現代型家族問題に対する法と臨床心理学の融合的視点からの解決モデルの提案	二宮 周平	立命館大学・法学部・教授	平成21～25年度
手話コミュニティにおける遠隔コミュニケーション環境の提案	坊農 真弓	国立情報学研究所・コンテンツ科学研究系・助教	平成21～25年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧①

I 領域開拓プログラム

(第1期 H26～29) 12件

課題設定型研究テーマ (2件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	分野	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開	「社会価値」に関する規範的・倫理的判断のメカニズムとその認知・神経科学的基盤の解明	亀田 達也 他7名	法哲学、心理学、脳科学	北海道大学・大学院文学研究科・教授	平成26～29年度
メディアの発達によるソーシャル・キャピタルの変質	リスク社会におけるメディアの発達と公共性の構造転換～ネットワーク・モデルの比較行動学に基づく理論・実証・シミュレーション分析	遠藤 薫 他8名	社会学、経済学、情報学	学習院大学・法学部・教授	平成26～29年度

公募型研究テーマ (10件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	分野	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
規範理論と経験分析の対話	規範理論としての法語用論の開拓—ヘイト・スピーチの無効化をめぐる—	尾崎 一郎 他3名	法学、言語学、心理学	北海道大学・大学院法学研究科・教授	平成26～29年度
	地域に資する再生可能エネルギー事業開発をめぐる持続性学の構築	西城戸 誠 他8名	社会学、林学	法政大学・人間環境学部・教授	平成26～29年度
情報メディア発展のもとでの新しい地域研究	新たな華語情報環境のもとでの中国研究が示唆する次世代型地域研究	鈴木 賢 他6名	法学、社会学	北海道大学・大学院法学研究科・教授	平成26～29年度
	エネルギー政策・言説の日独地域比較	タツ川崎 レスリー 他12名	政治学、社会工学	筑波大学・人文社会系・准教授	平成26～29年度
	地域社会の災害レジリエンス強化に向けて—SNSとクラウドGISを用いた共時空間型地域研究	古澤 拓郎 他4名	地域研究、防災工学	京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授	平成26～29年度
学術研究の変容とミスマッチについての人文学・社会科学研究	責任ある研究・イノベーションのための組織と社会	吉澤 剛 他7名	知識政策、科学技術社会論	大阪大学・大学院医学系研究科・准教授	平成26～29年度
行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開	生きる力の認知神経科学的分析とその教育応用研究の創成	杉浦 元亮 他12名	脳機能イメージング、心理学	東北大学・加齢医学研究所・准教授	平成26～29年度
	高齢者の生活行動データベースの構築および可視化による振り返り学習の実践	溝上 智恵子 他6名	教育学、情報学、認知科学	筑波大学・図書館情報メディア系・教授	平成26～29年度
	歴史科学諸分野の連携・総合による文化進化学の構築	井原 泰雄 他6名	進化人類学、考古学、科学哲学	東京大学・大学院理学系研究科・講師	平成26～29年度
	社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明	石井 敬子 他5名	社会心理学、神経科学、内分泌学	神戸大学・大学院人文学研究科・准教授	平成26～令和2年度※

(※) 平成29年度に研究期間の延長を申請し、領域開拓部会の評価の結果、令和2年度まで延長が認められた。

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧②

I 領域開拓プログラム (第2期 H29～R2) 12件

研究テーマ設定型 (0件)

研究テーマ公募型 (12件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	分野	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
「認知科学的転回」とアイデンティティの変容	アイデンティティの内的多元性：哲学と経験科学の協同による実証研究の展開	竹澤 正哲 他5名	社会心理学、哲学	北海道大学・文学研究科・准教授	平成29～令和2年度
	脳機能亢進の神経心理学によって推進する「共生」人文社会科学の開拓	小山 慎一 他5名	神経心理学、デザイン学	筑波大学・芸術系・教授	平成29～令和2年度
	個々人の心的アイデンティティの多元的認知行動解析による理解	一川 誠 他17名	認知科学、情報科学、計測工学	千葉大学・大学院人文科学研究科・教授	平成29～令和2年度
	予測的符号化の原理による心性の創発と共有-認知科学・人文学・情報学の統合的研究-	大平 英樹 他8名	認知科学、情報学	名古屋大学・情報学研究所・教授	平成29～令和4年度※
	創発的知性としての「群衆の智慧」：集団意思決定による社会と個人の変容	齋木 潤 他5名	認知科学、社会心理学、数値生態学	京都大学・人間・環境学研究所・教授	平成29～令和2年度
「責任ある研究とイノベーション」の概念と「社会にとつての科学」の理論的実践的深化	生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究—21世紀型参加のビジョンと試行—	松田 毅 他18名	哲学、生命科学、環境科学	神戸大学・人文学研究科・教授	平成29～令和2年度
	RRIの新展開のための理論的・実践的研究—教育・評価・政治性に注目して	標葉 隆馬 他8名	科学社会学、生物学	成城大学・文芸学部・専任講師	平成29～令和2年度
テクノロジーの革新と日本の美学および感性	観客とともに共創する芸術—光・音・身体の共振の社会的・芸術学的・工学的研究	山崎 敬一 他13名	社会学、芸術学、情報工学	埼玉大学・人文社会科学研究所・教授	平成29～令和2年度
	響き合う空間、励起される美意識	古川 聖 他2名	実験音楽、建築学	東京藝術大学・美術学部・教授	平成29～令和2年度
	日本の伝統芸能における技法やコンテンツを先端ロボット産業に活かすUXデザイン研究	中川 志信 他7名	芸術学、理工学、デザイン学	大阪芸術大学・芸術学部・教授	平成29～令和2年度
嗜好品の文化的・社会的意味	失われた飲食文化の復活と現代に問かけるその意義	伊藤 信博 他15名	文学、農学	名古屋大学・人文学研究科・助教	平成29～令和2年度
	「嗜好品」とは何か？—嗜好品に関する学際的研究と文献データベース構築を通して	松原 豊彦 他18名	農業経済学、民俗学、心理学	立命館大学・経済学部・教授	平成29～令和2年度

(※) 令和2年度に研究期間の延長を申請し、領域開拓部会の評価の結果、令和4年度まで延長が認められた。

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧③

I 領域開拓プログラム

(第3期 R2～R4) 11件

研究テーマ設定型 (0件)

研究テーマ公募型 (11件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	分野	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
人文学・社会科学における方法論の検討 および新たな創出の試み	分野間比較を通じた質的研究アプローチの再検討	井頭 昌彦 他10名	歴史学、社会学、文化人類学、心理学、政策科学	一橋大学・大学院社会学研究科・教授	令和2～4年度
	対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化	波多野 想 他6名	文化遺産学、環境経済学	琉球大学・島嶼地域科学研究所・教授	令和2～4年度
人工知能など高度化する情報技術社会におけるルールと公共性の問題	AIが介護保険行政を代行する際のルールに関する研究－地域経営とSCの視座から－	川島 典子 他6名	社会福祉学、人工知能、医療情報学	福知山公立大学・地域経営学部・教授	令和2～4年度
グローバル化社会における格差と機会の平等についての領域横断的研究	リテラシー格差の発生要因とその意思決定への影響、格差縮小方策に関する実証研究	小川 一仁 他14名	行動経済学、社会心理学、社会情報学、公衆衛生学	関西大学・社会学部・教授	令和2～4年度
科学技術と「人間」との関係性に関する研究	創造する天然知能としての「わたし」の理論と実践	郡司 幸夫 他8名	哲学、文化人類学	早稲田大学・基幹理工学部・教授	令和2～4年度
パンデミックなど世界規模の災禍への人間社会の対応と課題	新型コロナウイルス 問題対応の法制度論的（法政策論的）考察	吉田 邦彦 他5名	法学、疫学、感染症学、統計分析学	北海道大学・大学院法学研究科・教授	令和2～4年度
	新型コロナウイルスに関する主観的報告コーパスの自然言語処理による現象学的分析	トム・フロース 他8名	認知科学、哲学	沖縄科学技術大学院大学・身体性認知科学ユニット・准教授	令和2～4年度
	パンデミックの歴史研究に基づいたポストパンデミックの社会・環境理論の構築	藤原 辰史 他10名	歴史学、医療社会学、経済学	京都大学・人文科学研究所・准教授	令和2～4年度
	災害対策検討に資する網羅的企業取引ネットワークにおける大規模シミュレーション	井上 寛康 他4名	ネットワーク科学、経済学、情報学	兵庫県立大学・大学院シミュレーション学研究科・准教授	令和2～4年度
	グローバルな視座から見た原子力災害後のコミュニケーションに関する総合的研究	関谷 直也 他6名	心理学、社会学	東京大学・大学院情報学環総合防災情報研究センター・准教授	令和2～4年度
エビデンスに基づく感染症拡大の経済学・疫学連携研究と政策分析	西山 慶彦 他10名	経済学、疫学、情報学	京都大学・経済研究所・教授	令和2～4年度	

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧④

Ⅱ 実社会対応プログラム (第1期 H25～27) 13件

課題設定型研究テーマ (2件)				
課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
人口動態を踏まえた日本の国と社会のかたち	少子化対策に関わる政策の検証と実践的課題の提言	阿部 正浩 他17名	中央大学・経済学部・教授	平成25～27年度
非常時における適切な対応を可能とする社会システムの在り方	非常時における適切な対応を可能とする社会システムの在り方に関する社会科学研究	齊藤 誠 他11名	一橋大学・大学院経済学研究科・教授	平成25～27年度
公募型研究テーマ (11件)				
課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
観光の人文学・社会科学的深化による地域力の創出	国境観光：地域を創るボーダースタディーズ	岩下 明裕 他16名	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・教授	平成25～27年度
	民間所蔵文化財の資源化・流通による学術観光創成の実証的研究	安藤 美奈 他8名	東京藝術大学・美術学部・講師	平成25～27年度
	地域に現存する学術資料を活用した地域学術観光創出に関する研究	堀井 洋 他10名	合同会社 A M A N E ・調査研究ユニット・代表社員	平成25～27年度
規制改革の評価分析	雇用確保に向けられた労働法及び倒産法における規制改革の現状と課題	池田 悠 他4名	北海道大学・大学院法学研究科・准教授	平成25～27年度
	規制改革圧力下における混合診療拡大の方向性	加藤 智章 他4名	北海道大学・大学院法学研究科・教授	平成25～27年度
	短期貸借保護制度撤廃による不動産競売市場・規制改革の効果分析	福井 秀夫 他8名	政策研究大学院大学・政策研究科・教授	平成25～30年度
教育政策の社会的・経済的效果に関する評価	初等中等教育での教育投資や学力が若年期の学習意欲・就業・所得に与える影響の実証研究	赤林 英夫 他8名	慶應義塾大学・経済学部・教授	平成25～27年度
共生社会実現をめざす地域社会及び専門家の内発的活動を強化するための学術的実践	認知行動療法のICT化とサポートネットワーク構築によるバリアフリーなメンタルケア	下山 晴彦 他13名	東京大学・大学院教育学研究科・教授	平成25～27年度
	病院を中心とする街づくり まちなか集積医療の提言	伊藤 由希子 他4名	東京学芸大学・教育学部・准教授	平成25～27年度
	ケアと支え合いの文化を地域コミュニティの内部から育てる臨床哲学の試み	浜渦 辰二 他18名	大阪大学・大学院文学研究科・教授	平成25～27年度
	高齢者施設等の地域への社会的・福祉的防災復興資源としての役割に関する研究	大塚 毅彦 他5名	明石工業高等専門学校・建築学科・教授	平成25～27年度

(※) 平成27年度に研究期間の延長を申請し、実社会対応部会の評価の結果、平成30年度まで延長が認められた。

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑤

II 実社会対応プログラム

(第2期 H27～30) 11件

課題設定型研究テーマ (2件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
制度、文化、公共心と経済社会の相互連関	制度が文化を通じて人々の社会規範や公共心に与える影響：実験室実験とフィールド実験	佐々木 勝 他9名	大阪大学・大学院経済学研究科・教授	平成27～30年度
疫病の文化形態とその現代的意義の分析 — 社会システム構築の歴史的考察を踏まえて—	医学史の現代的意義—感染症対策の歴史化と医学史研究の社会との対話の構築	鈴木 晃仁 他25名	慶應義塾大学・経済学部・教授	平成27～30年度

公募型研究テーマ (9件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
制度、文化、公共心と経済社会の相互連関	私益と公益が錯綜する公共的意思決定のプロセスデザインに関する研究	大沼 進 他5名	北海道大学・大学院文学研究科・准教授	平成27～30年度
	効果的・持続的な災害伝承を目的にした拠点構築手法のモデル化と実践的研究	佐藤 翔輔 他13名	東北大学・災害科学国際研究所・助教	平成27～30年度
	子ども・若者の貧困対策諸施策の効果と社会的影響に関する評価研究	阿部 彩 他10名	首都大学東京・大学院人文科学研究科・教授	平成27～30年度
	日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究	齋藤 貴之 他7名	星城大学・リハビリテーション学部・講師	平成27～30年度
	共感形成の社会基盤とソーシャル・ビジネスを活用した新産業創造の研究	八木 匡 他10名	同志社大学・経済学部・教授	平成27～30年度
人口減少地域社会における安心しうるケア・システムの構築と生活基盤の整備	地域特性が生きる医療介護総合計画の評価基準の確立—小児在宅医療を起点にして	加藤 智章 他4名	北海道大学・大学院法学研究科・教授	平成27～30年度
	地域社会における生活基盤の持続可能性指標の開発	大西 立顕 他2名	東京大学・大学院情報理工学系研究科・准教授	平成27～30年度
	データベース解析に基づくケア・システムの地域特性の把握と福祉まちづくりデザイン	佐無田 光 他12名	金沢大学・経済学経営学系・教授	平成27～30年度
	多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究	藤原 佳典 他10名	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター・東京都健康長寿医療センター研究所研究部長	平成27～30年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑥

II 実社会対応プログラム (第3期 H30～R3) 8件

研究テーマ設定型 (0件)

研究テーマ公募型 (8件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
世代間衡平性・持続可能性・社会安全性等の倫理的観点を考慮した政策設計のための実践的研究	親族内承継か第三者によるM&Aか? : 沖縄におけるファミリー企業の実地調査	打田 委千弘 他7名	愛知大学・経済学部・教授	平成30～令和3年度
	工学・脳科学をエビデンスとした社会的基盤概念と価値の創生	松浦 和也 他16名	東洋大学・文学部・准教授	平成30～令和3年度
LGBTおよび性的少数者をめぐる社会的ダイバーシティの実現に関する研究	生殖補助医療・社会的養護によるLGBTの家族形成支援システムの構築	二宮 周平 他12名	立命館大学・法学部・教授	平成30～令和3年度
人口減少社会における多様な文化の共生をめざすコミュニティの再構築	尊厳ある縮退によるコミュニティの再生と創生	渥美 公秀 他12名	大阪大学・人間科学研究科・教授	平成30～令和3年度
	移住者を惹きつける中山間地域の地域資本を解き明かす : 山梨県での学際的地域協働研究	高橋 康夫 他7名	公益財団法人地球環境戦略研究機関・自然資源・生態系サービス領域・研究員	平成30～令和3年度
	実践と政策のダイナミクスによる多文化共生 : 大阪型在日外国人参加モデルと政策提言	高谷 幸 他13名	大阪大学・人間科学研究科・准教授	平成30～令和3年度
	人口減少社会における包摂と継承—「最先端」秋田からの提言	熊谷 嘉隆 他12名	国際教養大学・国際教養学部・教授	平成30～令和3年度
忘却に関する学際的研究と社会対応基盤の構築	忘却するWeb情報提示機構の実装と認知的・経済的価値の評価	森田 純哉 他3名	静岡大学・情報学部・准教授	平成30～令和3年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑦

Ⅲ グローバル展開プログラム (第1期 H25～28) 5件

課題設定型研究テーマ (2件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
グローバル人文学	アジア歴史空間情報システムによるグローバル・ヒストリーの新研究	水島 司 他10名	東京大学・大学院人文社会系研究科・教授	平成25～28年度
日本の国際広報と国際発信に関する実証研究	政治と外交の対外情報発信に関する国際共同研究：日本と他国の比較、実験と内容分析によるアプローチ	多湖 淳 他7名	神戸大学・大学院法学研究科・准教授	平成25～28年度

公募型研究テーマ (3件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
科学についてのコミュニケーション及び意思決定の国際的な整合的発展	エネルギー、化学物質、水管理政策における市民参加型の意思決定手法に関する国際比較	大久保 規子 他9名	大阪大学・大学院法学研究科・教授	平成25～28年度
家族制度と男女共同参画に関する国際比較	国際比較可能データによる男女共同参画と家族の役割変化の多元的動学分析	樋口 美雄 他13名	慶應義塾大学・商学部・教授	平成25～28年度
日本企業のコーポレート・ガバナンスに関するグローバルな発信	日本の企業統治の比較実証分析：所有構造・戦略選択・パフォーマンス	宮島 英昭 他8名	早稲田大学・商学大学院・教授 早稲田大学・高等研究所・所長	平成25～28年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑧

Ⅲ グローバル展開プログラム (第2期 H28～R1) 7件

研究テーマ設定型 (1件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
グローバル社会における排他主義と民主シーに関する総合的研究	グローバル社会における民主シーと国民史・集合的記憶の機能に関する学際的研究	橋本 伸也 他20名	関西学院大学・文学部・教授	平成28～令和元年度

研究テーマ公募型 (6件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
グローバル社会における排他主義と民主シーに関する総合的研究	多文化共生民主シーの社会的基盤設計－制度・構造・規範の国際比較共同研究	大賀 哲 他17名	九州大学・法学研究院・准教授	平成28～令和元年度
	「難民危機」の時代におけるレイシズムの変容とその克服策に関する国際比較研究	飯田 文雄 他9名	神戸大学・法学研究科・教授	平成28～令和元年度
グローバル化に対応した人文学・社会科学教育の国際比較	人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究	佐藤 学 他24名	学習院大学・文学部・教授	平成28～令和元年度
	国民国家型の大型歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較	堤 一昭 他12名	大阪大学・文学研究科・教授	平成28～令和元年度
グローバル人文学：日本文学・芸術・思想の普遍性の探求	絵ものがたりメディア文化遺産の普遍的価値の国際共同研究による探求と発信	阿部 泰郎 他23名	名古屋大学・文学研究科・教授	平成28～令和元年度
	道元の世界観：分析アジア哲学的アプローチ	出口 康夫 他10名	京都大学・文学研究科・教授	平成28～令和元年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑨

Ⅲ グローバル展開プログラム

(第3期 R1～R3) 6件

研究テーマ設定型 (0件)

研究テーマ公募型 (6件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
グローバル化する世界における社会的分断の研究	グローバル化のなかの都市分断と社会的紐帯に関する近隣効果の国際比較研究	川野 英二 他10名	大阪市立大学・大学院文学研究科・教授	令和元年～3年度
情報化やAIなどの技術革新および環境問題などに直面する新たな人文学・社会科学の展開	AI時代の国際私法	佐藤 健 他2名	国立情報学研究所・情報学プリンシプル研究系・教授	令和元年～3年度
	技術革新および環境化学物質は不妊を増加させたか	小西 祥子 他7名	東京大学・大学院医学系研究科・准教授	令和元年～3年度
人類の文化遺産継承のための国際共同研究	逸失の危機にある文化遺産情報の保全・復元・活用に関する日・欧・アジア国際共同事業	稲葉 穰 他7名	京都大学・人文科学研究所・教授	令和元年～3年度
	新たな価値を創造する文化遺産活用の国際共同研究 ユーザー関与度深化、地域作りの視点	河島 伸子 他5名	同志社大学・経済学部・教授	令和元年～3年度
	文化遺産保護の統合的ガバナンス方法論開発のための国際共同研究	河野 俊行 他9名	九州大学・大学院法学研究院・教授	令和元年～3年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑩

IV 学術知共創プログラム (第1期 R3～R8) 2件				
課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
分断社会の超克	移住・移民の常態化を前提とする持続的多文化共生社会の構築	坂井 一成 他13名	神戸大学・国際文化学研究所・教授	令和3～8年度※1
新たな人類社会を形成する価値の創造	プラスチック汚染の実態解明を通じた共通価値創造：循環経済へのネットワーク創出	原田 禎夫 他14名	大阪商業大学・公共学部・准教授	令和3～8年度※2
IV 学術知共創プログラム (第2期 R4～R9) 2件				
課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
新たな人類社会を形成する価値の創造	よりよいスマートWEを目指して：東アジア人文社会知から価値多層社会へ	出口 康夫 他31名	京都大学・大学院文学研究科・教授	令和4～9年度
	人間・社会・自然の来歴と未来：「人新世」における人間性の根本を問う	中村 靖子 他22名	名古屋大学・大学院人文学研究科・教授	令和4～9年度

(※1) 令和4年6月16日付 契約解除

(※2) 令和5年2月27日付 契約解除